

黑龍江省檔案館編

滿鐵調查報告(第一輯) 9

廣西師範大學出版社

昭和十四年二月

綏中縣  
官莊升科地  
調查報告書

備  
註  
。 調  
查  
部

一 本篇ハ昭和十三年十二月十一日乃至十八日ノ一週間、滿洲國國務院土地制度調査會ノ委囑ヲ受ケ、錦州省綏中縣凌家屯ニ出張シテ踏査シタ結果ヲ取纏メ、同會ニ報告シタモノテアル。

二 調査期間ノ短カカツタノト、資料ノ蒐集カ十分テナカツタ爲、補完調査ヲ行フニ非サレハ、判定ノ出來兼ヌル様ナ問題カ、決シテ少クハナカツタノデアルカ、夫レ等ハ他ノ同一性質ノ土地ヤ、民間通行ノ慣習等カラ類推シテ、慮新ヲ下シタ點ノアルコトヲ告白シテ置ク。

三 本官莊升科地ハ清末ノ拂下ニ因ル私有化ニモ拘ラス、今仍ホ舊管理人タル莊頭ト、世襲小作人タル水佃戸トノ分割所有形態ヲ持續シテ居ル點ニ於テ、實ニ珍ラシイ異型ノ一特種地タルヲ秩ハヌ、但シ拂下後既ニ約三十年ノ歲月カ流レテ居ルノテ、前清時代ニ於ケル莊園制度ノ遺制一殊ニ大凌河牧馬群ノ飼養關係ヲ調査スル爲、戸口當時ヲ物語リ得ル古老ヲ搜シ出斯塔ケニモ容易ナラヌ困難カ伴、從ツテ本調査ハ之等採訪ノ結果ハ殆ト之ヲ引用セス、專ラ委囑ノ耳目タル水佃關係ノ闡明ニ重點ヲ置イテ、舊管理人家ニ保存サレテアツタ舊記ヲ參酌シテ考察ヲ進ムル方針ヲ採ツタ。

四 本官莊升科地ト同一又ハ類似ノ性質ヲ有スル水田關係ノ土地ハ、今  
後滿洲國ニ於ケル地籍整理事業ノ進捗ニ隨ツテ、舊奉、吉兩省所屬各  
縣ニ、陸續トシテ殞起發生ヲ見ルコトト逆觀サレル、若本報告カ夫レ  
等ノ紛糾審定ニ幾分ナリトモ貢獻スルトコロアラハ、望外ノ欣幸テア  
ル。

五 本調査ニ付テハ、綏中縣地籍整理局監査官西村好夫氏ノ並々ナラヌ  
協力援助ヲ煩ハシタ、茲ニ謹ンテ感謝ノ意ヲ表スル。

昭和十四年一月三十日

滿鐵調查部

囑託 天 海 謙三郎

康德六年二月一日

綾中縣  
凌家屯  
官莊升科地調查報告書

土地制度調查會  
委員 天海 謙三郎

松中縣凌家屯官莊升科地調查報告書

目次

第一	概說	一
(一)	官莊ノ種類	一
(二)	官莊ノ沿革	一
(三)	官莊ノ數	二
(四)	官莊ノ莊地	三
(五)	莊戶	四
(六)	佃戶	六
(七)	官莊ノ丈放	八
(八)	丈放後ノ官莊莊地	九
第二	地主凌雲閣ニ付テ	一
(一)	家系	一
(二)	莊地數	二
(三)	丈放當時ノ莊地面積	七
(四)	凌莊頭ノ丁、佃	八
(五)	永佃地	〇
(六)	現租地	四

第七	第六	第五	乙	中	(七)	乙	中	四	三	(二)	(一)	第四	第三	(八)	(七)		
處理上ノ顧慮要點	永佃戸ノ現租ニ付テ	永佃戸ノ私産ニ付テ	丈放後ニ於ケル轉租	丈放前ニ於ケル轉租	永佃權ノ讓渡	撤地奪佃ノ實狀	增租祭令ノ限界	增租奪佃ニ對スル保障	永佃地賣價ノ分與	永佃地ノ優先買取	莊地ノ承領	佃耕地ノ世襲	佃耕地ノ分種	永佃權ニ付テ	永佃戸ニ付テ	凌雲閣ノ私産	結 錢
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二九	二四	一四	〇九	九九	九九	九二	八二	七七	七二	六七	五八	四九	四五	二九	二六	二五	二五

# 第一 概 說

本件紛争地ハ前清時代錦州管理莊糧事務衙門一略シテ管莊衙門又ハ管莊公署ト謂フ一ノ管轄ニ屬シタル内務府官莊一一種ノ官有地一ノ一部ニシテ清末光緒三十二年大放ノ結果全ク其ノ性質ヲ一變シテ完全ナル個人ノ私有地ト化シ所謂官莊升科地ナル地目ノ下ニ綏中縣ニ對シテ每年成規ノ地稅ヲ納メツアル土地ニシテ王公莊地ニハ非ス故ニ茲ニ本報告ノ理解ニ資スルタメ先ツ簡單ニ官莊制度ノ梗概ヲ略述スルヲ當然ノ順序ナリト信ス

## (一) 官莊ノ種類

錦州莊糧衙門ノ管轄ニ屬シタル内務府官莊ハ一般ニ錦州官莊又ハ山海關外官莊ト呼ハレ(イ)糧莊(ロ)納糧莊(ハ)納租莊(ニ)納銀莊ノ別アリ内糧莊ハ其ノ莊地ノ多寡ヲ按シテ之ヲ頭等一即チ一等一乃至四等ノ四級ニ分チ大糧即チ稗ヲ以テ主要納租物體ト爲ス點ヨリ大糧莊ノ別名アリ又毎年立冬乃至立夏ノ約半年間大凌河牧廠官馬羣ノ飼養ニ服シタルヨリ俗ニ之ヲ養馬官莊トモ稱シ其ノ管理人タル莊頭ハ大糧莊頭又ハ養馬莊頭ノ名ヲ以テ呼ハレタリ

## (二) 官莊ノ沿革

錦州官莊ノ設立沿革ニ關シテハ文獻完備セス從ツテ設立年代ノ明カナ



ルモノ例へハ乾隆五十六年大凌河牧廠閑荒餘地ヲ以テ新設セラレタル  
二等糧莊三十八、三等糧莊二十八、計六十六莊竝嘉慶年間既設ノ糧莊  
ヨリ改設セラレタル納糧莊十六、納銀莊十五等合計九十七莊ヲ除ケル  
爾餘ノ官莊ニ就テハ之ヲ以テ概ネ清朝國初ノ創設ニ係ルモノト推定ス  
ルヲ妨ケサルヘシ而シテ清初ノ編設ニ係ル官莊モ亦其ノ莊戸ノ歸屬原  
因ニ依リテ帶地投充官莊ト否ラサルモノトニ區別セラル帶地投充官莊  
トハ官莊編設ノ前後、清朝ニ投充一即チ歸順一シタル人民及其ノ隨帶  
セル土地ヲ一括利用シテ其ノ儘官莊ニ編設スルト共ニ引續キ之ニ其ノ  
承襲佃耕ヲ認メタルモノ喚言スレハ官莊ノ莊地カ莊戸ノ墾耕開熟シタ  
ル原有私産タリシ點ニ於テ他ノ創設官莊ト差別セラルヘキモノニシテ  
丈放ノ際ニモ此ノ沿革的特異性ヲ尊重シテ地價ノ繳納ヲ免除スル等特  
別優遇ノ道ヲ講セラレタリ但シ帶地投充官莊ハ其ノ數甚タ夥カラサリ  
シカ如ク整理當時ノ記録ニ據レハ丈放莊地總面積百三十五萬六千七百  
餘畝中漸ク三萬零四百六十餘畝ヲ算シタルニ止マレリ

(三) 官莊ノ數

錦州官莊ノ莊數ハ時ニ依リ増減アリ載籍亦其ノ記述ヲ一ニセサルモ要  
ハ清初ノ二百十六莊一糧莊二一一、納糧莊一、納銀莊四一ヨリ嘉慶年  
間ニハ三百四十一莊一糧莊三〇三、納租莊三四、納銀莊四一マテ漸増

シタリシカ丈放當時ニ至リテハ糧莊二一六莊一、一等六二、二等三〇、三等二四、四等一〇〇一納糧莊四五莊、納租莊四莊、納銀莊一九莊等合計二百八十四莊ヲ剩シタリ其ノ減少ノ理由ハ主トシテ前清室ノ王公總親ニ對スル分賜ニ在リト解シテ可ナリ

(四) 官莊ノ莊地

官莊組織ノ一要素タル土地ハ之ヲ莊地ト稱シ官莊ノ管理人一名又ハ管理人竝莊戸數名ノ名義ヲ以テ承領セシムルヲ例トス各官莊ノ承領莊地數ハ制度上凡ソ次表ノ如ク定メラル一晌一、一繩ハ六畝一

納租莊	納糧莊	納銀莊	莊糧				莊種
			四等	三等	二等	一等	
九〇〇		三〇〇 五〇〇 一	三九〇	四五〇	五一〇	五四〇 〇〇 畝	每莊承領 莊地畝數
一五〇		八三三 〇三	六五〇	七五〇	八五〇	九〇〇 〇晌	每莊承領 莊地晌數

本件當事者タル前莊頭凌雲閣ハ一等糧莊ノ承領莊地數ヲ以テ前表ヨリモ五〇畝多シト説キ且一畝ハ六。一三畝ノ實面積ヲ有スト陳述セリ故ニ實際ニ於テハ各莊トモ前掲ヨリモ多數ノ畝數ヲ承領シタルモノナルヘシ

但シ右ハ設莊當初ニ於ケル大體ノ標準ヲ示シタルニ過キササル如ク同級同種ノ官莊間ニ於テスラ多少ノ參差出入ヲ免レサリシヲ實狀トス而シテ國家ハ之カ負擔ノ均衡ヲ保タシムル目的ヲ以テ雍正四年以來屢次編審ヲ行ヒ莊級ノ變更ヲ加ヘ來リシモ乾隆八年遂ニ之ヲ廢止シテ再ヒ編審ヲ行ハス爾來或ハ隣接開荒ノ續墾或ハ水冲沙壓、私典盜賣等々ハ直接間接莊地ノ増減ヲ將來スル原因トナリ年處ヲ經ルニ隨ツテ前掲ノ標準莊地面積ハ次第ニ亂脈ニ陥ラサルヲ得ス結局之カ承領額ヲ按シテ等級及莊種ヲ區別スルノ僅ニ沿革的意義ヲ有スルニ過キササルニ至レルハ後述本官莊ノ實狀ニ照シテ明白ナリトス

## (五) 莊 戶

官莊ニハ官莊ノ管理及佃耕納租ニ當ラシムルタメ所要ノ莊戶ヲ設ケタリ莊戶ノ首長ヲ莊頭ト謂ヒ莊頭以外ノ者ヲ壯丁ト稱セリ壯丁中莊頭ノ一門近支ニ屬スル者ハ異姓外宗ノ壯丁ト區別スルタメ特ニ之ヲ親丁ト

呼フ定例ニ從ヘハ各官莊ハ莊頭一人、壯丁十人ヲ以テ組織セシムルヲ  
原則トシ壯丁ハ專ラ莊地ノ佃耕納租ニ任シ莊頭ハ之カ管理徵租ニ職司  
スヘキモノダリ而シテ莊地ノ承領ニ際シテハ莊頭一人官莊全段ヲ包括  
的ニ承領シテ更ニ之ヲ壯丁ニ分段領種セシメタルモノアリ莊頭、壯丁  
相 別々ニ莊地ノ承領經營ニ服スル一面莊頭ヲシテ之カ統率徵租  
ヲ掌ラシメタルモノアル等地方ニ依リ又沿革ニ依リ承領方法ヲ同シク  
セス悉ク一概ニ律シ去ルコト能ハスト雖要スルニ何レノ場合ヲ問ハス  
莊頭ハ必ス各官莊ノ首長ダリ代表者ダリ莊地ノ承領、佃耕、租差ノ貢  
納、壯丁ノ統率、監督等苟モ官莊ノ管理經營ニ關スル限り全責任ヲ負  
ヘテ當差服役スヘキモノタリシハ則チ一ナリ

莊頭、壯丁ハ官莊旗籍ト稱スル特種ノ戶籍ニ編録セラレ世襲シテ專ラ  
官莊ノ佃耕納租ニ從事スヘキ分限ヲ有セリ換言スレハ莊頭、壯丁ハ身  
分的ニ內務府即チ清朝ニ從屬シ父子相承ケ相繼キテ專ラ官莊佃耕ニ任  
スヘキ特殊ノ農民タリシナリ其ノ結果莊戶ノ家系ト官莊莊地トノ間ニ  
ハ緊密離ルヘカラサル特殊ノ關係ヲ生シ苟モ莊戶ニ非サレハ官莊ノ管  
理佃耕ニ當ルヲ得ス莊地ハ名ハ官地ナルモ實ハ莊戶ノ恒産タリ彼等ハ  
之ニ頼リテ衣食シ之ニ基キテ家族ヲ贍養スルノ社會ヲ形成スルニ至レ  
リ即チ官莊ノ管理佃耕ハ莊戶生計ノ根源トモ稱スヘキ獨特ノ地位ニシ

テ他ノ侵占ヲ排除シ之カ世襲獨占ヲ保障セラレタル權利ナリ此ノ如ク  
莊地ノ得喪ハ直ニ彼等ノ死活存亡ニ影響シ官莊制度ノ維持ニ容易ナラ  
サル阻碍ヲ與フル恐レアリシカハ之カ丈放以前ニ在リテハ國家ハ其ノ  
地位一之ヲ缺ト謂フ一ヲ以テ必ス莊戸ノ家系ニ於テ獨占又ハ世襲ヲ必  
要トスヘキ分限所謂專缺、世缺ト定メ國家ト雖正當ナル事由アルニ非  
サレハ擅ニ罷免革退ヲ行ハス又故ナク増租奪佃セラレサルノ保障ヲ與  
ヘタリ其ノ官莊ノ丈放ニ際シテ莊戸ニ對シ拂下ノ優先順位、拂下地價  
ノ低減並佃耕關係ノ存續等特別ナル顧慮ヲ拂ヘタル理由モ亦實ニ之等  
ノ沿革的分限ニ因ルモノニシテ詮スル所官莊莊地ノ大部分カ莊戸祖先  
ノ原估墾闢ニ基ケル結果ナリト解スヘキナリ

## 六 佃 戸

官莊ニハ前述シタル莊戸ノ外官莊籍ニ隸屬スルコトナク一般旗民籍ニ  
在リ乍ラ莊戸ト同シク官莊ノ佃耕ニ服シタル小作人アリ小作人ハ其ノ  
佃耕ノ權源ニ溯リテ之ヲ永佃戸及現佃戸一現租戸トモ謂フ一ノ二ニ分  
ツコトヲ得永佃戸ハ又原墾戸一略シテ墾戸トモ謂フ一原佃戸或ハ老佃  
戸トモ謂ヒ(1)清初原占ノ既墾地ヲ有シタル者カ設莊ノ際偶其ノ土地ヲ  
官莊ニ收用セラレ一之ヲ圈佔ト謂フ一シ結果已ムナク將來ノ世襲佃耕  
ヲ條件トシテ敢テ莊頭ノ管理ニ服シ來レル者、謂ハハ圈地後モ一般旗

民籍ニ踏留リテ官莊籍ヘノ轉徙ヲ肯ンセザリシ點ニ於テ値ニ其ノ帶地  
投充莊戸ト差別シ得ル者ト(2)設莊以後未墾莊地ノ開拓ニ從事シ自家ノ  
開墾地段ニ對シテ莊頭ヨリ永遠佃耕ノ權能ヲ附與セラレタル者(3)典、  
當、退價又ハ押租等ト稱スル一定ノ對價ヲ給付シテ莊頭又ハ其ノ承繼  
人ヨリ莊地ノ佃耕權ヲ繼受シ之カ回贖ニ接セサルタメ遂ニ一種ノ準水  
佃戸ト化シタル者(4)(5)ノ場合ニ於ケルト同シク押租又ハ轉租價ト稱ス  
ル對價ノ給付ニ因リテ原墾戸又ハ其ノ承繼人ヨリ永佃權ヲ取得シタル  
者等ノ別アリ其ノ莊地ニ對スル佃耕ニハ毫モ身分的差儀ノ性質ヲ含マ  
ス純然タル私法關係ニ基因セルモノナリト雖而モ依テ以テ一家ノ活計  
ヲ支持安固ナラシムヘキ祖遺ノ恒産タリ佃耕ノ淵源スル所、資本勞力  
ノ投下經營ニ在リ、莊頭ト雖理由ナク増租奪佃ヲ行フコトヲ得ス世襲  
シテ永遠營業セシムル外ナキモノタルハ毫モ壯丁ニ於ケルト相擇ハサ  
リシモノトス是特ニ注意ニ値スル點ナリ、次ニ現佃戸トハ莊戸又ハ永  
佃戸等ノ承領ニ歸セサル莊地換言スレハ莊頭ニ於テ自種又ハ直轄シ未  
タ永佃權ノ設定ヲ見サル莊地ニ對シテ普通ノ小作關係ニ依リ租權ヲ取  
得シタル小作人ヲ總稱スルモノニシテ其ノ佃耕ハ租期一通常一年、稀ニ  
三年、五年ヲ約スルモノアリ一ノ滿了ト同時ニ直ニ消滅スヘキ性質ノ  
モノタリ從ツテ事實上ニ於ケル佃耕期間ノ長遠ハ何等之カ權利ノ本質

ヲ左右スルニ足ラス若要スレハ莊頭ハ何時タリトモ容易ニ其ノ契約ヲ解除シテ自由ニ撤地奪佃ヲ爲シ得ヘク是永佃トノ重要ナル相異點トス

(七) 官莊ノ丈放

錦州官莊設立ノ目的ハ原ト大凌河牧廠官馬羣ノ飼養ニ當差セシムルニ在リタリ故ニ光緒二十八年ニ於ケル同牧廠ノ廢止ハ自カラ錦州官莊ノ存續ヲ不必要ト爲セリ茲ニ於テ乎光緒三十一年十月欽差繼務大臣廷杰ハ奏請シテ之カ整理ノ裁可ヲ得、翌年直ニ丈放ニ著手シテ宣統元年ニ至リ全ク其ノ拂下ヲ終レリ今其ノ丈放ノ要旨ヲ示サンニ莊地ハ之ヲ上中下及沙城竝嶺基等ノ五等則ニ分テ每畝地價トシテ銀二兩一錢一上則地及嶺基一兩四錢一中則地一七錢一下則地一及三錢五分一沙城地一ヲ徵シタル外別ニ手数料トシテ地價ノ一割五分一五經費一ヲ附加徵收シテ各該官莊ノ莊戶及原佃戶ノ報領ヲ許スト共ニ給スルニ一定ノ執照ヲ以テシ承領後ノ自由典賣ヲ認メ完全ナル所有權ヲ與ヘタリ尤モ幣地投充官莊ニ限り特ニ地價ヲ免除スルノ優遇ヲ與ヘタルハ既述ノ如シ尙莊地承領ノ順位ニ付テハ整理ノ便宜上第一ニ各該莊頭ノ優先拂下權ヲ認メ唯莊頭ニシテ拂下ノ資力又ハ意思ナキ等ノ場合ニ限り一無力承領具結一ナル一種ノ承諾書ヲ徵シテ之カ拂下ヲ第二順位者タル現在ノ丁、佃ニ移讓スルト共ニ佃戶自盡ノ餘地及三園ニ付テハ直ニ佃戶ノ拂

四

下ニ委ネ一附録第一一以テ紛争ヲ未然ニ防止スルノ方法ヲ採レリ其ノ他報領ノ範圍ヲ各自ノ承領莊地ニ制限シ他ノ官莊又ハ丁、佃ノ分領地段ヲ冒領越奪セシメサリシコト及拂下後モ舊ニ仍リ莊頭ノ增租奪佃ヲ禁止シ從來ノ佃耕關係ノ存續ヲ命シ依テ以テ原墾戸ノ保護ニ周密ナル用意ヲ拂フ所アリシハ蓋シ前述シタル官莊固有ノ特質ニ基ケルモノニ外ナラサルナリ

終リニ注意ヲ要スルハ莊戸又ハ佃戸等カ一無力承領具結一ヲ呈シテ自家ノ莊地ヲ他ノ丁、佃ニ讓與シタル場合ニ在リテハ必ス結錢一莊頭ノ場合一又ハ退價一丁、佃相互間ノ場合一ト稱スル金錢ノ授受ヲ行ヒ以テ承領權又ハ佃耕權ノ對價ニ提供シタルノ一事ナリ是又彼等カ官莊ニ對シテ有セシ管理及佃耕ノ本質ヲ如何ニ觀念セルカノ一左券トシテ輕視ヲ容ササル點ナリトス

文放後ノ官莊莊地

錦州官莊ハ丈放後新ニ官莊升科地ナル地目ヲ冠シ他ノ一般旗民地トハ地券、徵稅鹽帳等ノ様式ニ於テ多少ノ沿革的區別ヲ存セサルニ非サリシモ其ノ永佃關係アルモノヲ除ケハ他ハ皆純然タル個人ノ私有地トシテ之カ處分ニ關シテ何等ノ制限ヲ被ムラス自由ニ典賣スルコトヲ得



下ニ委ネ一附錄第一一以テ紛争ヲ未然ニ防止スルノ方法ヲ採レリ其ノ他報領ノ範圍ヲ各自ノ承領莊地ニ制限シ他ノ官莊又ハ丁、佃ノ分領地段ヲ冒領越奪セシメサリシコト及拂下後モ舊ニ仍リ莊頭ノ增租奪佃ヲ禁止シ從來ノ佃耕關係ノ存續ヲ命シ依テ以テ原墾戸ノ保護ニ周密ナル用意ヲ拂フ所アリシハ蓋シ前述シタル官莊固有ソ特質ニ基ケルモノニ外ナラサルナリ

終リニ注意ヲ要スルハ莊戸又ハ佃戸等カ一無力承領具結一ヲ呈シテ自家ノ莊地ヲ他ノ丁、佃ニ讓與シタル場合ニ在リテハ必ス結錢一莊頭ノ場合一又ハ退價一丁、佃相互間ノ場合一ト稱スル金錢ノ授受ヲ行ヒ以テ承領權又ハ佃耕權ノ對價ニ提供シタルノ一事ナリ是又彼等カ官莊ニ對シテ有セシ管理及佃耕ノ本質ヲ如何ニ觀念セルカノ一左券トシテ輕視ヲ容ササル點ナリトス

### 丈放後ノ官莊莊地

錦州官莊ハ丈放後新ニ官莊升科地ナル地目ヲ冠シ他ノ一般旗民地トハ地券、徵稅臺帳等ノ様式ニ於テ多少ノ沿革的區別ヲ存セサルニ非サリシモ其ノ永佃關係アルモノヲ除ケハ他ハ皆純然タル個人ノ私有地トシテ之カ處分ニ關シテ何等ノ制限ヲ被ムラス自由ニ典賣スルコトヲ得、所有者ハ所屬縣公署ニ對シ國課一上則八分、中則七分、下則六分一ノ交納ヲ要スヘキ土地ナルハ冗說ヲ須キス